



## 途上国の産業人材育成 ——SDGs時代の知識と技能——

山田 肖子・大野 泉 編著

東京 日本評論社 2021年 xiii+330p.

本書では、発展途上国における産業人材育成の課題を、アフリカにおける職業技術教育・訓練（Technical and Vocational Education and Training、以下 TVET）を中心に議論している。第 I 部は人材育成に関する議論、第 II 部は日本政府や日本企業による人材育成支援、第 III 部はアフリカにおける人材育成の実際を取り上げている。本書で取り上げられたアフリカの国は、エチオピア、南アフリカ、ケニア、ルワンダの 4 カ国である。

第 I 部では、理論編として産業人材育成に関する議論の検討を行っている。国際援助における TVET の重要性の歴史的变化、数値化しづらい社会的スキルや自ら考える能力等である「非認知的能力」の重要性、グローバル・バリュー・チェーンと途上国における人材育成、人材育成後の受け皿としてのスキル需要側の課題を取り上げている。第 II 部では、国際協力機構（JICA）が行なってきた途上国への人材育成支援の経験をもとに、その課題を指摘している。日本政府による産業人材育成支援やカイゼンなどの日本企業特化型の人材育成の歴史の変遷を概観し、エチオピアにおけるカイゼンの受容の状況、ルワンダにおける平和構築としての日本政府の TVET 支援など具体的な事例を紹介している。第 III 部では、ミクロ・データやフィールドワークから、より詳細にキャリア形成とそれに影響する要因などを検討している。工業化先行国のベトナムと後発国のエチオピアを比較して途上国における TVET の役割を論じた章のあとに、南アフリカとエチオピアの服飾産業における公立 TVET の役割、ケニアのインフォーマルなソファ製造とエチオピアのフォーマルな革靴製造の人材育成などを比較検討した章などが続く。また、エチオピア・ガーナ・南アフリカの学生や労働者を対象に行なわれた能力調査の結果や、エチオピアの労働者のキャリア形成を教育機会、初職、転職など段階を追って調査した結果を示した章もあり、さまざまなアプローチからアフリカにおける人材育成の課題を検討している。

著者が合計 13 人のため若干統一性がとれていない印象はあるが、各章で提示されるさまざまな課題には説得力がある。本書において明快な解決策が提示されるわけではないところに、産業人材育成の難しさがあるといえよう。各章で使用された専門用語については関係する他の章が示されており、そこからさらに理解を深めることができる。

児玉 由佳（こだま・ゆか／アジア経済研究所）

